

1 プロジェクト内容

(1) プロジェクト名	思春期にある中学生のメンタルヘルス向上プロジェクト ー地域共生社会の実現に向けてー
(2) プロジェクトの成果 (※そのような成果が得られたかについて具体的に記載)	
<p>思春期にある中学生のメンタルヘルスの実態を把握することを目的に、A市にある女子中学校に在籍する1年生199名を対象に、2023年12月～2024年2月にアンケート調査を実施し、42名から回答を得られた(回答率21.1%、有効回答率100%)。</p> <p>保護者の承諾は、43名から得られている。保護者の承諾者数と生徒の回答者数の差異は1であった。生徒自身の意思決定の機会を設定できたことは意義深いと考える。</p> <p>42部のデータ結果には、特徴的なデータがいくつか見られた。基本的な生活習慣においては「1週間のうち、一人で夕食をとることが1回以上ある」と回答し、孤食の割合が19%であったこと、「SOSを出せる人がいるか否か、いるとしたらそれは誰か」という設問ではSOSを出せる相手は「いない」と回答した生徒が2.4%、「ダイエットの経験があるか否か」について「あり」と回答した生徒が26.2%、それぞれ存在した点である。</p> <p>程度が増すことにより、その傾向があるということのみにとどまらず、精神疾患への移行が懸念される「対人恐怖傾向」と「離人感」を測定する質問項目は、前者では「たまにある」、「いつもある」を合わせると78.6%、後者は59.6%であった。しかし、思春期の脳は大人より不安感受性が高まることが知られていることから、慎重にこの数字を分析する必要がある。</p> <p>その他の結果は添付資料に記載したので参照されたい。</p>	
(3) プロジェクト実施内容 (※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載)	
<p>1年目は中学生を対象にしたアンケートによるメンタルヘルスの実態調査を行い、その結果に基づいて、市民を対象にした中学生のメンタルヘルスリテラシーに関する市民講座を構築する。2年目に構築した市民講座教育用プログラムを実施し、プログラムの結果をアンケートにより評価するという流れを予定していた。アンケートの調査項目については、学校教育課とも協議を重ねて調整して仕上げ、金城学院大学人を対象とする倫理審査委員会に審査の申請を提出した。当該委員会からは倫理的配慮が不十分との指摘を受け、2度(8月末、9月末)の修正と再審査を経て承認を得た(承認番号:生命科学2307号)。しかし、調査実施依頼の呼びかけの段階で、学校教育課から学校への紹介が難しくなった等の事情により、2年目に実施予定としていた企画の実施が困難になったため、単年計画に変更修正を行った。実施時期は2023年12月～2月にデータ収集を行った。</p> <p>実施したアンケート調査の項目は、次のとおりである。基本的な生活習慣、中学校生活に関する事、インターネット依存度、対人恐怖傾向および離人感のほか子どもの心の健康度を測る一般的なスクリーニングテストである、子どもの心の強さと困難さアンケートの一部を用いた。全33項目に加え、心の健康面で気になることを自由記載で求めた。</p>	

(4) プロジェクトの今後の課題と展望

調査の回収率が21.1%と低かった。これは調査実施時期が、年末や2月の期末試験の時期と重なったことで、アンケートへの協力について落ち着いて考える、また、回答する事への阻害因子となったと考えられる。そのため時期を見直すことが重要である。

また、協働の在り方についても課題が残された。今後は学校側が直面している課題に見合ったものを行うために、事前にプレ調査を行うなどしながら関係性を構築し、より協働していくフェーズをアンケート実施に先立ち、前倒しで設定することが重要であるとする。研究者、瀬戸市学校教育課、私立中学校、公立中学校の4者あるいは、それに保護者を巻き込むような準備段階を踏まえることが今後の課題である。

(注) プロジェクトに関する参考資料がある場合は、A4サイズで添付してください。